

はばたこう 明日へ

巻頭言

「特別の教科 道徳」の授業に期待する 2

内海 静雄 元全国・東京都道徳教育研究会会長

教科書特集

平成30年度 小学道徳 教科書のご案内 4

授業づくりのヒント おもしろい道徳授業を創る③

小さな道徳授業から始めよう! 10

鈴木 健二 愛知教育大学教育実践研究科教授

授業実践

学校教育目標(学級目標)を具現化できる道徳科 12

竹井 秀文 名古屋市立下志段味小学校教諭

「考え、議論する」道徳授業をめざそう!③

「横浜の道徳」が大切にしてきたもの 14

中澤 道則 横浜市立さが丘小学校校長

「特別の教科 道徳」の授業に期待する

うちみ しず お
内海 静雄

元全国・東京都道徳教育研究会会長
元東京都文京区立誠之小学校校長



1 いよいよ「特別の教科 道徳」が始まる

今年2月14日、文部科学省は新学習指導要領の全教科の改訂案を公表し、3月15日まで意見聴取、3月31日に告示を行いました。小学校の新教育課程の全面実施は、東京オリンピック開催の平成32年度（2020年）と定まっています。

しかし道徳はその2年前の平成30年度（来年度）から、「特別の教科 道徳」として、新教科書を使った授業が開始されます。

平成30年度は、明治初年から数えて、ちょうど150年に当たり、この節目に新しい道徳科がスタートすることは、誠に時宜を得た歴史的に意義深いものがあると思います。新たな時代の到来を予感するとともに、新たな希望や期待がわいてくるのを覚えます。来年は記念すべき年となるでしょう。

2 新道徳科の授業に期待すること

昨年末、中教審は、思考力や判断力を育てるため「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング、AL）を全学年、全教科に導入することを答申しましたが、今回の改訂案ではALの文言は消え

て、「主体的・対話的で深い学び」の文言が残りました。

今後はこの方向で授業探求が行われますが、特に基礎基本を養う道徳科では、以下の事項を大切にしていってほしいと願っています。

3 学校全体の指導體制を整える

一層充実した道徳教育を展開していくには、学校全体の指導體制を拡充していくことが必須です。

(1) まず全員で新学習指導要領を読み、改訂の趣旨や内容を理解・把握し、特に道徳科の目標・内容・方法について共通理解を図り、学校の経営方針や道徳教育推進計画に反映させるようにします。

(2) さらに具体的な作業を協力して行います。

具体的な作業とは下記のようなものです。

- ① (P) 計画（道徳教育全体計画、年間指導計画、学級における年間計画等を作成する。）
- ② (D) 実施（道徳科の授業、道徳部会、研究協議会、公開授業等を実施・開催する。）
- ③ (S) 評価（児童・家庭・地域の実態調査、授業時の指導と評価、「通知表・指導要録」の記入法の検討・周知徹底を図る。）

スパイラル的にPDSの作業を着実にを行います。

4 道徳科の授業に臨む教師の心構え

- ・教師は、「よりよい授業の探求と創造」に徹する。
- ・教師は、子どもの中に飛び込んで、共に学ぶ。
- ・教師は、子ども一人一人の“よさ”を発見する。
- ・教師は、子どもの心に「灯をともし奮い立たせる。」
- ・教師は、常に「自己と技を磨き指導力を高める。」

5 指導技術を磨き、指導力の向上に努める

- (1) 教師は、日々の授業をとおして研鑽します。
 - ①教師は、毎時間の授業で勝負します。
 - ②授業は、教師の生命であり自己実現の場です。こうした気概をもって最善を尽くし努力します。
- (2) 指導技術を磨くため「三磨」に励みます。
 - ①「習う」(よき師よき先輩の教えに学ぶ。)
 - ②「稽古」(何回も反復練習し千鍛万錬する。)
 - ③「工夫」(工夫して自分のものにしていく。)
- (3) 研究授業を積極的に行い、指導講評を受けます。

ある研究授業で騒然としていたクラスが、一瞬、担任の一言でシーンとなる。「静かにしなさい。」ではなく「目を閉じましょう。」だけ。質の高い授業でした。

6 道徳科の授業を質的に高める7つのポイント

次の7つのことについて丹念に吟味し作業します。

- (1) 本時のねらいを適切に設定します。

『七つのほし』で、「女の子・おかあさん」「ひしゃく」のどちらに焦点を当てるかによって、ねらいも違ってきます。「親切、思いやり」「崇高な畏敬の念」の道徳的諸価値、判断力か心情かの道徳性の選択。
- (2) 児童の実態を的確に把握して活用します。

『かぼちゃのつる』では、事前に「わがまま」についてアンケートをとり、授業で活用していきます。

- (3) 適切な指導過程を組み立てていきます。

『手品師』では、導入で「誠実で明るい心で過ごした事例」を話し合い、展開では「友人からの誘いの電話を受けた時」「翌日、男の子のところへいった場面」について話し合い、自分自身を振り返り、終末では本時のまとめをします。導入、展開、終末の各段階を工夫して指導過程をよりよく組み立てていきます。

- (4) 教材・資料を丹念に検討し準備していきます。

『絵はがきと切手』では、絵はがきをもらった時、返事を書く時、母と兄の考えが違ふことなど、教材分析に基づいて扱い方を工夫していきます。

- (5) 「発問」について工夫します。

『銀のしょく台』では、ジャン＝バルジャンがミリエル司教から「なぜ、しょく台もあげたのに食器と一緒に持っていかなかったのですか」と言われた時、どんな気持ちだったのでしょうか？ こうした基本発問や補助発問を工夫していきます。

- (6) 「板書や機器等の活用」について工夫します。

『花さき山』では、自分のことより他人のことを思って辛抱したことを話し合い、一人一人が小さな紙に自分の体験を書いて黒板に貼り、黒板にみんなの花さき山を作りました。最後に、互いに読み合い褒め合って盛り上がり、感動的に終わりました。

板書は、一目で授業の進行がわかり、話し合いを活発化させ、面白く楽しく有効なものにしていきます。

- (7) 「指導案」を丹念に作成していきます。

「夢ある処計画あり、計画ある処実践あり、実践ある処成功あり。故に夢ある処成功あり。」授業構想は夢で指導案に集約され、より充実した指導が展開されます。指導案はよい授業の鍵を握っています。

道徳科授業の開幕もいよいよカウントダウンの段階です。基本を大事に充実した道徳科の授業が展開されることを心から願ひ期待しています。

平成30年度 小学道德 教科書のご案内

いよいよ教科となる、道德の教科書が完成しました。
新しい道德教科書の特色をご紹介します。

次代を生きる 子どもたちのために

本書は、道德的諸価値について、子どもたちが自分事として考え、議論して深い学びができるように構成しています。特に、深刻ないじめ問題や、大切な自他の命のこと、今日的な課題の一つである情報モラルに重点をおきました。

社会が刻一刻と変化するなかで、これからも変わらないことは、私たちは他者や社会と関わり、支え合いながら、自身で考えて選択をし、生きていくということです。小学道德教科書の書名「はばたこう明日へ」には、子どもたち一人一人が、多様な他者と関わり認め合いながら、自己を見つめ、夢を育て、まだ見ぬ世界へ大きくはばたいていけるように、との思いをこめています。



新しい教科書の特徴

▶ いじめ問題への対応, 情報モラル, 生命尊重の重点化

本教科書では、いじめ問題への対応、情報モラル教育、生命尊重に重点をおきました。児童の成長に伴う生活の広がりや他教科での学習内容などを考慮して適切な題材を選定し、掲載しています。この3つのテーマの教材にはそれぞれマークをつけており、関連をもたせた指導を図ることができます。

重点の
マークいじめ問題への
対応を図る教材です。情報モラル教育に
対応した教材です。生命尊重について
扱った教材です。

▶ 先人の伝記や今を生きる偉人たちに学ぶ

困難に立ち向かい、時代をつくってきた先人や偉人の教材を多数用意しました。同じ時代を生きる現代の偉人の教材も多数掲載しています。人物の生き方をたどりながら、人間の在り方や自分の生き方を深く考えることができます。

▶ 定番教材で豊かな学びを実現

これまでの道徳の時間に活用されてきた、定評のある教材を多く掲載しています。実践の積まれた教材を、効果的に活用し、確かな学びを実現します。

▶ 学びの手引きで着実に学ぶ

読み物教材のあとには学びの手引きを用意しました。手引きには、教材の内容理解を図る発問や、自我関与や問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習ができる発問を用意しており、考え、議論する授業を展開することができます。

▶ モラルスキルトレーニングで学びを生かす

道徳場面を想定した体験的な学習である「モラルスキルトレーニング」ができる教材を各学年に用意しました。実生活で遭遇する問題場面について事前に学習することで、道徳的諸価値について実感をもって理解をし、ふだんの生活に生かすことができます。

いじめをなくすために みんなで考える

道徳の教科化の契機の一つに、深刻ないじめ問題がありました。本教科書では、いじめ問題への対応を重点テーマとして、教材を充実させました。教材は、低学年から高学年に向けての生活場面の広がりやを考慮し、発達段階に即して多様な場面を取り上げています。いじめの場面の教材だけでなく、いじめを防ぐ態度を育てる教材も合わせて用意しました。

1年・2年 の内容

● 仲間はずれなどをあつかい、いじめはしてはいけないということや、仲間はずれがあつたらどうするかを考えます。また、ふだんのなにげない言葉づかいに気をつけることや、いじわるをせず思いやりをもって友情を深めることの大切さを学ぶ教材を用意し、いじめの芽をつむことができるようにしました。

▼2年 たっくんもいっしょに



休み時間に起こった仲間はずれを題材にして、仲間はずれがよくないことであると判断し、行動する大切さを学びます。

教材の本文に入る前に、友達を「仲間はずれ」にしないためにどうすればよいか考える「拡大導入」ページを用意しました。授業後の理解の深まりや変容をみとることが可能です。拡大導入ページは、各学年2～3本用意しています。

3年・4年 の内容

ものかくしや陰口、仲間はずれなどの行為の深刻さや、見過ごさないことの大切さを学びます。いじめについては、加害者の問題だけでなく、傍観者の立場についても考えます。

学級でのプロレスごっこを題材にし、一見遊びに見える行為がいじめになりうることや、いじめの加害者だけでなく傍観者の問題にふれ、いじめを自分事として考えます。



▲4年 プロレスごっこ

5年・6年 の内容

高学年の児童の生活場面の広がりやを考慮し、メールによる情報の誤伝達によるトラブルや、インターネット上での匿名での悪口などのネットいじめの問題を扱った教材を用意しました。情報モラル教育と関連した指導も可能です。



▲5年 知らない間のできごと

メールによる情報の誤伝達で生じた友達とのトラブルを題材として、不用意な情報の扱いが精神的苦痛を与えることについて考えます。

「学びの手引き」と 「やってみよう」

道徳が教科となり、年間35時間（1年生は34時間）の授業の実施と、授業の質の向上が求められています。本書では、読み物教材に学びの手引きを設け、毎時間充実した授業が展開できるようにしています。また、モラルスキルトレーニングができる教材も用意しており、質の高い多様な指導法で授業をすることができます。

学びの手引き

読み物教材には学びの手引きを設け、指導の流れに沿った発問を掲載しました。発問は複数掲載し、児童や学級の実態に応じて活用することができます。

教材には、学びの手引き内に「ジャンプ」を設けたものがあります。「ジャンプ」には、役割演技などをおして、道徳的諸価値の理解をより深められる発問を掲載しています。

また、児童の考えるヒントとなったり発言を促したりするように児童のキャラクターと吹き出しを設けるなど、道徳の授業を充実させる工夫をしています。

「ジャンプ」では、役割演技をしたり、自分だったらどうするか考えたりする発問を用意しています。授業で活用することで、道徳的諸価値をより深く理解することができます。

教材の内容理解を図る発問を冒頭に用意しています。児童が共通認識をもって授業を展開することができます。

きまりをまもって

学びの手引き

- 1 リン車が「一台ものこって
いなかったとき、「わたし」は
どのように 思っただしょう。
- 2 しょうたさんと 顔を 見合わせた
とき、「わたし」は どのように
思っただしょう。
- 3 たつやさんの した ことの、
こまった ところは どこでしょう。
みんなて 話し合っ て みましよう。
- 4 たつやさんに つたえたい ことは
なんですか。どう つたえたら よいか、
みんなて 話し合っ て みましよう。

15 10 5

ジャンプ

「わたし」と しょうたさんは、
顔を 見合わせた あと、なんと
いっただしょう。
「わたし」と しょうたさんに
なっ て、やっ て みましよう。

しょうたさん わたし

17 5

やってみよう

モラルスキルトレーニングを取り入れた教材を、各学年に2～3本用意しました。教材の中に、「やってみよう」という学習活動を設け、道徳場面を想定した体験的な学習をすることができます。活動するだけで終わらないように、教材の最後に発問を設け、深い学びが実現できるようにしています。

「やってみよう」では、教材に合わせた具体的な場面を演じます。場面に合わせたイラストも用意することで、児童の思考を促すように工夫しています。

買心をもって



●買心を持って買物をしよう。買心を持って買物をしよう。買心を持って買物をしよう。

やってみよう ③

まなみさんはどういふはよかったですか。もう一度えんじてみましょう。

●店員のおじさんにはどんなふう話しかけますか。

●お客のおばあさんにはどんなふう話しかけますか。

やってみよう ②

まなみさんとお客のおばあさんに
なつてえんじてみましょう。

まなみさんのように、おばあさんに
話しかけましょう。

●おばあさんはなんと思つたでしょうか。書いてみましょう。

●おばあさんが買物をしていました。

おえ、おばあさん。
伺買いに来たの？
いつもここに買物に
来るの？



●おばあさんが、はたらくている人たちの気持ちを話してくださいました。
「わたしたちは、お店に来てくださったお客様に、『来てよかった』『また買物に来た。』
と思つていただけるように一生懸命に仕事をしています。ですから、お客様にはいつも
いねいな言葉づかひで真心をこめてせつするようになっています。これはみなさんが友だちと
気持ちよく生活するためにも大切なことですよ。いはつたような言葉づかひをされたら、
いい気持ちになりますね。話す言葉には、その人の気持ちが表れるのです。それではみな
さん、またおうちの人といっしょに買物に来てください。」

まなみさんは、自分のしたことを思い出し、はずかしくなつてきました。

▲3年 どうしていけないのかな

モラルスキルトレーニングの教材の最後に設定した発問を活用することで、体験的な学習を生かしたより深い学びを実現することができます。

教育出版 小学道徳「はばたこう明日へ」特設ページのご案内

教育出版のホームページに、小学道徳の特設ページを開設しました！
教科書の特色を詳しく解説した「編集の趣意と特色」、 「内容解説ビデオ」などを用意しています。

●小学道徳特設サイト

<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/docs/doutoku/index.html>

QRコードからも
アクセスできます。



授業づくりのヒント おもしろい道徳授業を創る

小さな道徳授業から始めよう！

すずき けんじ

鈴木 健二 愛知教育大学教育実践研究科教授

●小さな道徳授業とは

1時間の道徳授業を開発するのは、なかなかハードルの高い作業です。

そこで提案したいのは、

小さな道徳授業づくりから始めよう！

ということです。

小さな道徳授業とは、5～10分程度でできる道徳授業のことです。授業構成の基本は、「教材＋発問」という実にシンプルなものです。

感動した素材を集めたら、その感動を子どもたちと共有したくなってきます。その思いを授業にすればよいのです。

つまり、感動した素材を教材として子どもたちに提示し、1つか2つ発問をすればできあがるのです。

ただし、工夫してほしいことがあります。

それは、次の2点です。

- ① 子どもの興味・関心を高める提示を工夫する
- ② 子どもの思考を刺激する発問を工夫する

多くの道徳授業を参観しますが、子どもたちが教材に興味・関心をもつような工夫がほとんど見られません。生活経験などを発表させた後、「今日はこの教材で勉強します」と言って教材を配付するという展開が多いのです。

これでは、子どもたちの意識が教材に対して前向きになりません。

教材を早く見たい、読みたいと思ってこそ、より大きな効果を発揮するのです。こんなあたりまえのことがあまり行われていないのです。

発問も同様です。

子どもたちが思わず考えたいような発問を工夫してこそ、教材からの学びが深く心に刻み込まれるのです。

この2点は、1時間の道徳授業をつくるときにも重要なポイントとなります。

●小さな道徳授業をつくる

右の看板を見てください。京都のある駅でたまたま見かけたものです。

こんな看板を見てもほとんどの教師は立ち止まりもしないでしょう。

しかし、感動する心を大切にし、感動した素材を集めようという意識が高まってくると、このようなふだん気にもとめない

看板の前でも足を止めるようになってきます。

「小さな道徳授業をつくれそうだな」という気持ちがいってくるからです。

先に示した2つのポイントを意識すれば、「小さな道徳授業」をつくるためのいろいろなアイデアが浮かんでくるはずで

●興味・関心を高める

この看板をどのように提示すれば子どもたちに興味をもたせることができるでしょうか。

最も簡単なのは、言葉のどれかを隠して提示する方法です。



どの言葉を隠すかを決めるポイントは、

いちばん印象づけたい言葉はどれかを考える

ということです。

この看板の場合、隠す言葉の候補は次の4つです。

「同じ」「あなた」「わたし」「大切」

あなたは、どの言葉を隠しますか。

私なら、「あなた」と「わたし」を隠します。

子どもたちに、「何と何が同じ大切さなのだろう」という問いをもたせたいからです。

子どもたちなりにあれこれ予想しているうちに、どんな言葉が入っているのか知りたくなってきます。

子どもたちの興味・関心が高まったところで、隠した言葉が「あなた」と「わたし」であることを知らせます。このように教材を提示することによって、子どもたちの心に、看板の言葉がしっかりと刻み込まれます。

●思考を刺激する発問

次に、「思考を刺激する発問の工夫」です。

最初からよい発問をつくろうとしないことが大切です。

とりあえず、思いつく発問をあれこれ書いてみる
といいでしょう。

「何の大切さが同じなのでしょうか」

「“あなた”とは誰のことでしょうか」

「この看板はどんなことを呼びかけているのでしょうか」

「どうして交通局がこんな看板をつくったのでしょうか」

このような作業をしているうちに、授業の構成がだんだんと見えてきます。例えば、次のような授業です。

発問1 「わたし」の方が大切ではないですか。

発問2 この学級では「あなた」と「わたし」
が同じ大切さになっていますか。

このような小さな道徳授業は学級づくりにも生きてきます。

小さな道徳授業づくりの経験を積み重ねていくと、だんだん数多くの発問が浮かぶようになってきます。そうすると、いつのまにか1時間の道徳授業に発展していきます。小さな道徳授業づくりは、道徳授業の開発力を確実に高めます。

●小さな道徳授業の活用場面

小さな道徳授業は、5～10分間なので、さまざまな場面で活用できます。

朝の会、帰りの会、学年集会、全校朝会、学校行事、1時間の道徳授業の導入や終末等。

ある小学校では、毎週月曜日を「小さな道徳の時間」にして全校で取り組んでいます。

一人の教師が、小さな道徳授業プランを2～3つつくって、それを全校で共有して活用している中学校もあります。

このような取り組みによって、小さな道徳授業が、学校全体で推進する道徳教育の基盤として広がっていくようになるのです。

あなたも、小さな道徳授業から始めてみませんか？

学校教育目標 (学級目標)を 具現化できる道徳科

～道徳科における「カリキュラム・マネジメント」で、
子どもが変わる!!～

たけい ひでふみ
竹井 秀文 名古屋市立下志段味小学校教諭

●はじめに

前回は、道徳科におけるアクティブ・ラーニングにより、学級経営が深まり、子どもたちの生活がより豊かになることを述べた。今回は、子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえて、道徳科におけるカリキュラム・マネジメントをいかに実現して、学校教育目標（学級目標）を達成させるのかを述べたい。

●カリキュラム・マネジメントについて

文部科学省は、各学校が編成する教育課程を核に、全教育活動を改善する重要な鍵となる「カリキュラム・マネジメント」の確立を求めた。そして、以下の3つの側面から捉えている。

- ・学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育内容を組織的に配列していくこと。
- ・教育内容の質の向上に向けて、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- ・教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資材も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

以上のような側面から、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指している。

●道徳科におけるカリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメントの充実は、道徳教育

を軸にすべきである。それは、学校教育目標（学級目標）が、人間力の向上をねらっているからである。

いま一度、学校教育目標（学級目標）に立ち返り、その実現に向けて教育課程を見直していただきたい。

そのうえで、道徳科におけるカリキュラム・マネジメントを3つの側面で捉えて、確立してほしい。

- ・道徳科で学ぶ内容項目がふだんの生活に発揮されるように、他教科・他領域を横断的に配列し、よりよく生きる姿へつなげる。
- ・同じ内容項目の授業を2～3時間連続させ、実施する。パフォーマンス評価とポートフォリオ評価を実施して、よりよい生き方を考え続ける。
- ・道徳科で学ぶ内容項目をより深く考えさせるために、人的・物的資源を活用し、実体験をしながら、よりよい生き方を求め続ける。

また、各学校の道徳教育推進教師（道徳主任）が、学校教育目標に直結する道徳教育の重点を設定している。その重点化された内容項目におけるカリキュラム・マネジメントの確立は必須であろう。

●実践紹介（高学年実践）

今回、紹介するカリキュラム・マネジメントは、テーマを「未来の自分～卒業～」とし、重点化した内容項目は、よりよく生きる喜び（高D-②）である。

●テーマについて

本テーマ「未来の自分～卒業～」のねらいは、夢や希望に向かって、自分の目ざす生き方を考え、人間のすばらしさを感じ、よりよく生きる喜びを味わうこととした。そのために、偉人（勝海舟、西郷隆盛、杉原千畝）を教材にした道徳の時間を軸に「よりよく生きる喜び」を深く学ぶカリキュラムを設定する。

●授業の実際

T：一教材を配り「自分ならビザを出しますか。」

C：出さない。出すと自分や家族が危ない。

C：出す。ユダヤ人の命のほうが大切。

C：自分たちより、みんなのほうが大切。

T：一教材のすべてを読む（C：いい話）
 T：「どうして杉原さんはビザを書き続けたのだろう。」
 C：人間として大事なことがみえたと思う。
 T：人間として大事なことってなんだろうか。
 C：人間として大事なことは、人の命を守ること。
 C：人間として大事なことは、人を平等に思うこと。
 C：人間として大事なことは、困っている人を助けること。
 C：困っている人を助ける心が、人間として大切。
 C：人を考え生きるとは、心豊かでたくましく生きること。

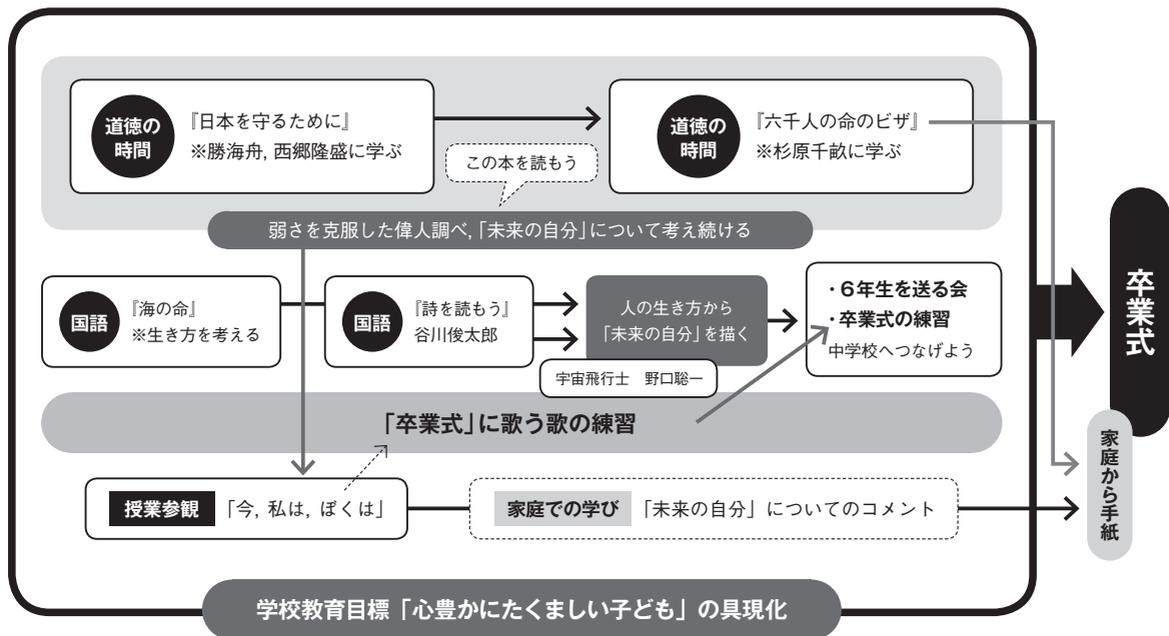
す。それを発展させるために⑤「命をかけて努力する」「自分の全力が出せる」という次の段階へ。そして、⑥「世界の人々を幸せにできる」となり、「世界を平和にすることができる」という意味がみえてきます。最終的には、⑦「美しい未来をつくりだすことができる」とゴールにたどりつくことができます。だから、①～⑦のスタートからゴールまでを「人間のよさ」だといえます。それが、杉原千畝のすばらしさであることが理解できました。

●まとめ【児童の日記より】

私は、次のように考えをまとめました。まず、①「美しい心をもつこと」そうすれば、②「人を助けたいという思いが出てくる」人と思う、人を支える思い、思いやり、やさしさがスタートします。そして、③「人に愛される人になる」という重要な考えがみえてきます。つぎに、その③が発展して④「人と心をつなぐことができる」ということを発見しま

●おわりに

私たちは、子どもたちの成長をどこで感じるのか。むろん学力もあるだろう。しかし、いちばん感じ得るのは、人間的成長ではないだろうか。どの学校へ赴任しても、その学校にふさわしいすばらしい学校教育目標が掲げられている。その目標に向かって、全職員が一枚岩になれば、当然、子どもたちは大きく伸びる。学校教育目標（学級目標）の具現化、子どもたちの人間的成長のために、道徳教育を軸にしたカリキュラム・マネジメントの確立は急務である。



「考え、議論する」道徳授業をめざそう！

「横浜の道徳」が 大切にしてきたもの

なかざわ みちのり
中澤 道則 横浜市立さちが丘小学校校長

はじめに

横浜市の小学校道徳教育研究会では長年にわたり展開後段の振り返りにおける「語り合い」を大切に研究を進めてきました。そしてもう一つ、その振り返りをよりいっそう、充実したものにするために、日常の教育活動との関わりを大切に「学習の総合化」を進めてきました。

学習過程としては「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）にある「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」とほぼ重なっています（表1参照）。特徴的であるのは、導入において子どもたちが本時に学習する内容を「自分事」として捉えることをとおして「学習課題」を設定すること、資料をとおして価値を追究した後に、「価値把握」を明確に行うことです。その上に立って、展開後段では把握した価値に照らして自己の在り方を振り返ります。

振り返りでは「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）に言うところの「交流」することを大切にしています。なぜなら、自分自身が捉えたことだけでなく、友だちの見方・考え方にふれることをとおして、より広く、深く自己を見つめることができると考えているからです。これはいわゆる、「多面的・多角的に自己を見つめる」ことにつながります。

しかし、いくら「自己を見つめる」といっても「見つめるべき自己」が曖昧では表面的な振り返りに終わってしまいます。そこでもう一つ大切にしている

のが「学習の総合化」です。日常の教育活動において自己の在り方を見つめ、それと道徳の時間を連動させることで、「より深く自己を見つめる」ことができると思ったのです。以下、実践事例をもとに説明します。

実践事例 第5学年 高B-⑦ 親切、思いやり

【主題名】相手の立場に立って

【資料名】列車の中で

（出典：教育出版 小学校道徳 心つないで⑤）

【展開例】

- 導入：「思いやり週間」をとおして「思いやりの星」が輝いてきたけれど、できないこともありましたね。
- 学習課題：「思いやりの星」をもっと輝かせるために、必要な考えを見つけよう。
- 資料の視聴
- 展開前段：①「ぼく」が（どうしようか）と悩んでいたのは、どんな気持ちがあったからでしょう。②なぜ、「ぼく」は席を譲ろうと声をかけることができたのでしょうか。③結果として母親に断られてしまったのですが、「ぼく」の行動には意味があったのでしょうか。
- 価値把握：「自分じゃなくても」ではなく、自分から相手のことを考えて行動することで相手も周りの人もうれしい気持ちになれる。そうすれば、「行動」は受け入れられなくても「思い（気持ち）」は伝わり、みんなが温かい気持ちに包まれる。
- 展開後段：思いやり週間や日常の中で、「ぼく」のように「自分じゃなくても」ではなく相手のこと

	×	読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習 〔特別の教科 道徳〕の指導方法・評価等について（報告）平成28年7月22日より	横浜市における基本的な学習過程
導入	登場人物の心理理解のみの指導	道徳的価値に関する内容の提示 教師の話や発問をとおして、本時に扱う道徳的価値へ方向づける。	本時、学ぶべきことを自分事として捉える。 学習課題 本時、学ぶべきことを学習課題として共有する。
展開		登場人物への自我関与 教材を読んで、登場人物の判断や心情を類推することをとおして、道徳的価値を自分との関わりで考える。 【教師の主な発問】 ・どうして主人公は〇〇という行動をとることができたのだろう ・主人公はどういう思いをもって△△という判断をしたのだろう ・自分だったら主人公のように考え、行動することができるだろうか 振り返り 本時の授業を振り返り、道徳的価値を自分との関係で捉えたり、それらを交流して自分の考えを深めたりする。	展開前段 資料をとおして価値を追究し把握する。 価値把握： 価値と「価値のよさ」を明確に捉える。 展開後段（振り返り） 把握した価値に照らして自己を深く見つめる。
終末		まとめ 教師による説話。 等	実践に向けて意欲をもつ。

表1 横浜市における基本的な学習過程

を考えて過ごせたかな。

●終末：教師の説話を聞く。

実践をとおして

本時の学習は、事前の「人権週間の取り組み」や、学級活動（2）ウ「より良い人間関係の形成：思いやりの星を輝かそう」と学習の総合化を図りました。これらの活動の中で子どもたちは「親切にもいろいろな表し方があること」を知ったり、「状況によって思いやりのある行動をとることができなくなってしまうことがある自分」について見つめたりします。そしてその中で、思いやりのある行動をとることはよいことである、ということを知っていながら行動に移すことができないこともある、そんな自分を乗り越えるためにはどのような見方・考え方が必要なのか、という問題意識を高め、本時の学習につなげていくわけです。

そのような「学習の総合化」を受けて実践したこの授業の展開後段で、子どもたちはさまざまな視点

から自己を振り返ります。特別クラブで下級生のことを思って行動することができた体験、町で思いやりのある行いを見て心が温かくなった体験、バスの中で荷物をたくさん持った人と席を代わった体験……。これらは学習の総合化の中で子どもたちが捉えた「自分自身の姿」です。その「姿＝具体」を本時、把握した価値に照らして考えるとき、「価値あること」が「子どもたち自身のもの」となるのだと考えます。

おわりに替えて

今回、道徳の時間が教科化されたことによって、指導の効果を高めるためにより多様な「指導法」が求められています。それはとても大切なことです。しかし、「方法」に振り回されることなく、子どもたちが「価値あること」を「自分にとって必要なこと、大切にしていきたいこと」として身につける、という本質を見失わないようにすることも、また大切なことだと考えています。



第15回

地球となかよし メッセージ

作品募集 (2017年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、
写真 (またはイラスト) にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に
参加賞が
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2017年7月1日～9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会
 ◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
 *協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね
<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

教育出版

「地球となかよし」事務局 TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前回
入選作品



ツバメに借家

去年から、うちの外灯の上にツバメが巣を作るようになってきました。実はツバメが下見に来た時、巣を作らせないようにビニールをかぶせました。しかし、新聞で「都市部のツバメの子育て受難」の記事を読み、ビニールをはずしました。ふんで玄関が汚れないように外灯にラップをかけ、下にカゴをつけ、新聞紙をひいて受け入れました。ヒナの成長を観察、見守ることができてとても幸せな気分になりました。

道徳通信 はばたこう明日へ (第3号) 2017年4月20日 発行

表紙イラスト: 手塚けんじ

編集: 教育出版株式会社編集局
印刷: 大日本印刷株式会社

発行: 教育出版株式会社 代表者: 山崎富士雄

発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864(お問い合わせ)

URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003	札幌市中央区北三條西3-1-44 ヒューリック札幌ビル6F TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011	函館市本町6-7 函館第一ビルディング3F TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014	仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル7F TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
中部支社	〒460-0011	名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル5F TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
関西支社	〒541-0056	大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル7F TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051	広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
四国支社	〒790-0004	松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル5F TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
九州支社	〒812-0007	福岡市博多区東恵比寿2-11-30 クレセント東福岡 E室 TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155	那覇市金城3-8-9 一粒ビル3F TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411